

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局有料道路課
担当課長名：上野 進一郎

| | | | |
|--|---|---|---|
| 事業名 地域高規格道路 広島県道 府中仁保線 | 事業区分 | 一般有料等 | 事業主体 広島高速道路公社 |
| 起終点 自：広島市東区温品町 至：広島市南区仁保沖町 | | | 延長 5.9 km |
| 事業概要 広島高速2号線は、広島高速1号線と広島高速3号線、広島呉道路、海田大橋を南北に結ぶ延長5.9 kmの自動車専用道路である。この道路の整備により、山陽自動車道、広島南道路、広島呉道路の主要幹線道路が自動車専用道路で連結され、都心部に集中する交通を適切に分散・導入することが可能となり、都市機能向上が図られる。 | | | |
| H11年度事業化 | | H6年度都市計画決定 | |
| H11年度用地着手 | | H13年度工事着手 | |
| 全体事業費 | | 事業進捗率 | |
| 1,025億円 | | 89% | |
| 供用済延長 | | 0 km | |
| 計画交通量 | | | |
| 約16,500～40,900台/日 | | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) 2.0 (残事業) 9.3 | 総費用 (残事業)/ (事業全体) 268/1,280億円 (事業費：110/1,122億円) (維持管理費：158/158億円) | 総便益 (残事業)/ (事業全体) 2,504/2,504億円 (走行時間短縮便益：2,147/2,147億円) (走行費用減少便益：220/220億円) (交通事故減少便益：137/137億円) |
| 基準年 平成20年 | | | |
| 感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=9.8～8.8（交通量±10%） 事業費変更：B/C=9.0～9.7（事業費±10%） | | | |
| 事業の効果等 ○物流効率化の支援（特定重要港湾広島港へのアクセス向上が見込まれる） ○安全で安心できるくらしの確保（第3次医療施設までの所要時間短縮） 他16項目に該当 | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 ○広島県や広島市から国へ早期整備の要望がなされている。 ○安芸郡府中町から整備促進の要望がなされている。 | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 広島港では、国際コンテナターミナルが整備され、物流効率化のため、広島港から山陽自動車道までのアクセス向上が必要となっている。また、高速2号線沿線では、大型商業施設や新球場が整備されている。 | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 現在、高架橋工事等の進捗を図っており、今後料金所施設、防音壁工事等に着手する。 | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成21年度末の全線供用を目標に事業進捗を図る。 | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 橋梁上部工に少数主桁橋の採用、下部工では直接定着式アンカーボルトや鋼管ソイルセメント杭を採用しコスト削減を図っている。 | | | |
| 対応方針 | | | |
| 対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。 | | | |
| 事業概要図 | | | |
| | | | |

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。